

特集 「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ教育の推進」

— 平成24年度「授業の達人大公開」 —

発見・感動・実感のある学習

～『伝える』活動を通して、イメージを広げ、表現力を高める子の育成～



浦和区 岸町小学校 教諭 北島 理喜枝

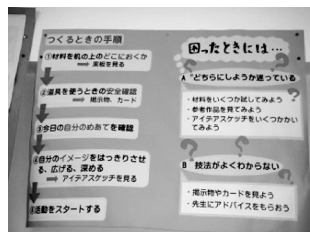
1 はじめに

本校では、学校研究テーマを「ふれあい・潤い・自己実現」とし、確かな学力を育むために、学び方を身に付け、確かな学力を育む指導の工夫の研究に取り組んでいる。

2 研究の内容

視点1 既習事項を活用した学習

児童に見通しをもたせ、主体的に活動できるように、学習ガイドを活用する。



【つくるのスタンダード】



【学習ガイド】

視点2 学習習慣の確立と学び方の習得

岸小スタンダード（個人活動の方法）の定着児童一人ひとりに「生きる力」を育成するために、図画工作科では、個人活動の方法の定着が大切であると考えた。そこで、**つくるのスタンダード**・**えがくのスタンダード**・**発想のスタンダード**・**伝え合いのスタンダード**などを定着させ、主体的に活動させる。

視点3 魅力的で力の付く授業展開

友人・教師との認め合い・交流がある授業（伝え合い活動）

「考えたことを言葉で表すこと」は、自分の表現したいことや作品への思いを明確にし

ていくことにつながる。また、それを友人に伝えることや友人の作品への思いを知ることによって、自分だけの学習では存在しなかった新たな思考ができるようになる。そこで、学習過程に「伝え合い活動」を設定することにした。

「発見・感動・実感」のある学習展開

導入時にうらわ美術館所蔵の本の鑑賞を行う。駒形克己やブルーノムナーリの本から色の美しさや、仕掛けの面白さなどを感じ、その感動を生かして自分の本をつくる。



【本の鑑賞】

3 研究の成果

・学習ガイドを活用し児童が見通しをより意識する姿が見られるようになった。

・学び方岸小スタンダードの定着で、児童が自ら学び、追求する姿が見られるようになった。授業の効率化も図られるようになった。

・教師、友達との認め合い・交流がある授業が行われることで、粘り強く学習に取り組み、イメージを広げながら作品をつくりあげていく姿が多く見られるようになった。



【三人組の伝え合い】



【児童の作品】